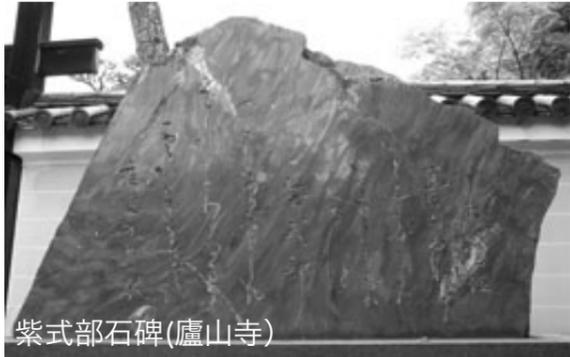


小倉百人一首の歌人たち(紫式部編)

”めぐり逢ひて、見しやそれとも、
わかぬ間に雲隠れにし、夜半の月かな”

百人一首は「源氏物語」が書かれた227年後歌人藤原定家によってその殆どが撰されていると云われ、その撰定基準の第一は、平安時代と鎌倉初期に撰された八つの勅撰和歌集によるものとされています。「八代集」といわれるものですが、百人一首は百首中、92首が八代集のどれかに撰ばれており、紫式部の歌は、八番目の「新古今集」の雑歌の部立に撰ばれています。もともと紫式部の歌は、八代集では「後拾遺集」「千載集」「新古今集」に合せて26首撰ばれていますが、「源氏物語」で790余首の歌を配して物語を作り上げている紫式部にしては、決して多いものではないのです。和泉式部が、八代集合せて134首撰ばれていることから伺えます。また定家が座右の和歌として、八代集の中から、自分の好みに合せて撰んだ「八代抄」というのがあります。ここでも紫式部の歌はたったの4首、和泉式部の64首の比ではありません。源氏物語であれほど、恋とか愛とか高らかに書き上げた紫式部の「恋歌」なる部立には「八代集」には2首、「八代抄」には1首もないのです。どうやら定家は紫式部を歌人としてではなく、文筆家として見ていたのでしょうか。清少納言を随筆家とみていたように・・・しかし定家は父、俊成の指導もあって源氏物語に接することも良しとし、1225年ごろには歌家の弟子たちと写本を完成させています。今日源氏物語の諸訳本や、諸研究の原典となっている定家筆「青表紙本」と言われるものです。これはあくまでも定家や弟子達の和歌の発想源としての写本だったとも云われております。しかし一字一句写していく作業であり、当然影響を受けていることは否めません。



紫式部石碑(廬山寺)

「源氏物語」には、光源氏の「死」を意味する源氏物語五十四帖に含まれない「雲隠れ」という帖がございます。ご承知の通り「源氏物語」は光源氏の栄耀栄華を綴った三十三帖からなる物語を第一部とし、以後衰えていく源氏を辿る四十一帖までの八帖が第二部と考えられており、第三部といわれる四二帖「匂宮」四三帖「紅梅」四四帖「竹河」をへて続く「宇治十帖」に入る前に、巻名のみ記された帖がございます。もとより、四二(死に)四三(死さ)四四(死々)の三帖は光源氏亡き後の物語でございます。以後四五帖からの宇治十帖は、源氏の因果な物語です。「知ってか知らぬか、紫式部、応報、源氏の子孫たち」となるわけで、実は「宇治十帖」は紫式部が書いてはいないという説もでてくるのです。つまり紫式部の源氏物語は「雲隠れ」を以って終わりとする考え方です。この雲隠れこそ百人一首の紫式部の歌にある文言なのです。この歌の詞書には「久し振りに巡り会った友達、東の間の出逢いで、はっきり見分けもつかないうちに、あわただしくも、雲に隠れて姿を消えてしまった友を、名残惜しさで詠んだ」というような意が記されておりますが「八代抄」にもたった4首しか撰ばなかった紫式部の歌の中で、恋の歌でもない、四季の歌でもない、この「めぐり逢い・・・」という歌を撰んだ定家は、この歌の中にある「雲隠れ」しか頭になかったのではないのでしょうか。この歌を百人一首に撰んだ定家の心は、「雲隠れせざるを得なかった、光源氏の生き様を暗示した、紫式部の好色の極みは裏腹に慎みや戒めに及んだ意図とも考えられ、それと合致するものではなかったかと思うわけです。

日本かるた院本院 参与 河田 久章

「都草」京都学ポイントレッスン 1

- ① 祇園祭で7月24日に行われる祭事は
(ア)神事済奉告祭 (イ)日和神楽 (ウ)花傘巡行 (エ)斎竹建
 - ② 7月13日頃から宵山まで、夜になると各山鉦で提灯に灯を入れ、囃子方は祇園囃子を奏でる。
この提灯はなんと呼ばれるか?
(ア)高張提灯 (イ)駒形提灯 (ウ)桶型提灯 (エ)こけし型提灯
 - ③ 平安時代からの斎場の名残りとして「オハケ」が設置され、祇園祭の還幸祭(7月24日)に三基の神輿を安置し、奉饌祭が執り行われる八坂神社の境外末社は?
(ア)御供社 (イ)御旅所 (ウ)疫神社 (エ)柳(なぎ)神社
 - ④ 聖護院、八坂神社、六角堂ゆかりの山で、神仏習合の姿が見られる山は?
(ア)八幡山 (イ)浄妙山 (ウ)黒主山 (エ)山伏山
 - ⑤ 神泉苑は平安京造営時の禁苑である。守敏は空海との雨乞い呪力争いに敗れ、羅城門近くで空海を討とうとするが、身を挺して空海を救ったと伝わる地蔵は?
(ア)矢取地蔵 (イ)肩きり地蔵 (ウ)伏見地蔵 (エ)鳥羽地蔵
 - ⑥ 祇園祭は平安時代・疫病退散を祈願したことに始まる八坂神社の祭礼である。古くは何と呼ばれていたか。
 - ⑦ 7月16日の夜、八坂神社・能舞台で、演目:素戔鳴尊「大蛇退治」の神楽が奉納される。何という神楽か。
 - ⑧ 平成20年2月人間国宝・羽田登喜男(友禅作家)死去。1982年から12年の歳月をかけて、祇園祭の山の懸装品を完成する。その山は?
 - ⑨ 山鉦巡行後、夕方から神幸祭が行われる。神幸祭で中御座神輿の先導を勤める綾戸國中神社の稚児は何と呼ばれるか。
 - ⑩ 室町時代祇園祭が斎行出来なかった時、粟田神社の粟田祭が代わりとなって行われたことがある。粟田神社の神幸祭での神輿渡御の露払いは何と呼ばれるか。
- ※この問題の解答は、都草だよりのどこかにあります。

“都草”事務所へ遊びに来てください!

皆様のご支援をいただき、4月1日より京都府庁旧館2階に都草事務所を開設致しました。お蔭さまで事務所としての設備や機能も次第に充実してきています。事務所は会員の皆様の「サロン」であり、京都の情報発信基地としての機能も持たせたいと考えています。京都に関する書籍・ビデオ・DVDなどを集めていますので、もしご自宅にあるもので、同じものが2つあるとか、置いておくのが邪魔というものがありませんでしたら事務所へご持参下さい。旧知事室等の案内・監視委託業務を、松枝理事を主として、田村・木村・高橋・坂本の各理事が交代で行なっています(府庁の休日以外、9時~17時)必ず誰かが居ますのでいつでも遊びにお越し下さい。住所:〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 電話/FAX (075)451-8146 E-mail: npo_miyakogusa@yahoo.co.jp U R L: http://miyakogusa.com

編集後記

会員の皆様から、多くの原稿を頂戴した事に御礼を申し上げますと共に今後もご協力賜りますようお願い致します。第2号は字数が多く読みにくいかと・・・反省です。いよいよ「京の夏」を迎えます。どうぞご自愛下さい。

第2号

NPO法人 京都観光文化を考える会



平成20年7月1日発行

発行人:坂本孝志

編集人:亀田正昭

発行所:京都市上京区

下立売通新町西入

京都府庁旧本館2階

T E L:075-451-8146

もう一つの祇園祭

■久世駒形稚児

日本三大祭の一つ、祇園祭は、貞観十一年(869)、都を中心に全国的に疫病が流行し、その疫病退散の神事として始められたと伝わる。現在三十二基の鉦や山が十七日に巡行し、それがあたかも祇園祭だと思われる事も多いが、これはどちらかという町衆中心の部分である。八坂神社が中心になるのは、十七日の神幸祭と二十四日の還幸祭である。神輿三基が各氏子地域を渡御しながら八坂神社の御旅所に向かい、一週間後に還幸する。その時に欠かせないのが綾戸國中神社の駒形稚児である。毎年久世郷の氏子の中から二名の稚児が選ばれ、まず十三日午後、厚化粧、白の狩着に紫紋入りの括り袴、金の烏帽子で八坂神社に社参する。山鉦巡行では常に先頭を行く長刀鉦の稚児でさえ下馬する神社の南楼門を乗馬のまま参入し、拜殿を三巡の後、本殿にのぼる。長刀鉦の稚児は、正五位十萬石。駒形稚児は、胸に綾戸國中神社の御神体である木彫りの馬の頭(駒形)をかけることでそれ自身が神と同一化し、神の化身となるため神と同格となり、位が上となる。神幸祭、還幸祭では、一名ずつ登場。着ているものは同じだが、稚児天冠をかぶり、駒形をかけてスサノヲミコトを祀る中御座の先導をつとめ、駒形稚児といわれる所以である。



久世駒形稚児

その昔、現在の上久世あたりが一面の湖水の時、スサノヲミコトが天から降りこの地を平野とし、その中心と思われる所に符を遣わした。その符とは、自らの愛馬、天幸駒の頭を模して作られたもので、それが國中社の御神体であり、祇園祭に供奉する稚児の胸にかけられている。馬は古くから神霊を運ぶ為の乗り物とされている。十七日の夕方、神社で綾戸國中神社の



スサノヲミコトの荒御魂と、八坂神社のスサノヲミコトの和御魂(ニギミタマ)を合体させ、最高の霊力を持つ神とし、その神を神輿にうつし、祭りを行う。その様子は平安時代の“年中行事絵巻”にも描かれており稚児が、片羽屋衆と思われる太鼓を馬上で打ちながら奉仕する人々と、ささら、拍子、鼓などを奏しながら、後に続く田楽座衆と思われる人々に囲まれた格好で、行列に供奉している。稚児は、白塗り(化粧)、長い袖の着物で、神に近づく為に変身する。この世のものとは違う形となり、そして神と交流する。子供は魂が抜けやすく、そこに神が入りやすくなるといわれている。三基の神輿が氏子区内を巡幸し、現在は四条寺町のお旅所に入る。神輿が祭礼の中心の為、広くその氏子の範囲を巡幸する。最強の神霊を乗せ、区内を巡り、神の大きいなる力を人々にもたらし、疫神を神輿に集めて送り遣るとされる。今年はそのもう一つの祇園祭を楽しんでみるのはいかがでしょうか。



綾戸國中神社

綾戸國中神社:杉浦和前宮司のお話より

昔は綾戸宮と國中宮の二社に別れていたが、現在は一社殿。左側の扉に綾戸宮、右側の扉にスサノヲミコトを御祭神とする國中宮をお祀りしている。國中社は中世には牛頭天王社とも呼ばれ、久世郷全体の郷社であったと推定される。戦国時代に國中社が綾戸社の境内に移転され、以来綾戸國中神社と称する。「國中社は素戔鳴神の荒御魂、八坂郷祇園社は素戔鳴神の和御魂なり。依って一体にして二神、二神にして一体で神秘の極みなり。」と古文書に記され、「神幸祭の七月十七日に久世駒形稚児の到着無くば、御神輿は八坂神社から一步も動かすことならぬ。もしこの駒故なくしてお滞りあるときは、必ず疫病流行し人々大いに悩む」と伝えられている。